

にほんやっかだいがく

日本薬科大学

1 講義名・定員

(1) 開放講義について

科目名	担当教員	曜日	時限	定員	備考
生活習慣病学* (薬学科4年)	教授 樋口敏幸	月	1	50名 程度	1限 9:15~10:45 2限 11:00~12:30 昼休 12:30~13:30 3限 13:30~15:00 4限 15:15~16:45 5限 17:00~18:30
循環・泌尿器系疾患と薬 (薬学科3年)	教授 松田佳和	月	1		
本草学* (薬学科4年)	教授 山路誠一	月	1		
薬学化学* (薬学科1年)	准教授 高山博之	月	2		
公衆衛生学 (医療ビジネス薬科学科3年)	教授 村橋毅	火	1		
人体を構成する器官 (薬学科1年)	教授 櫻田誓	火	2		
病原微生物学 (薬学科2年)	教授 渡邊峰雄	火	2		
健康食品学 (医療ビジネス薬科学科4年)	教授 高橋徹	水	2		
運動生理学 (医療ビジネス薬科学科2年)	准教授 縣右門	木	1		
薬と化学Ⅱ (薬学科3年)	講師 片岡裕樹	木	1		
実践医療薬学* (薬学科6年)	教授 勝山壮	木	1・2		
健康科学概論 (医療ビジネス薬科学科1年)	准教授 篠崎文夏	木	2		
悪性新生物と薬 (薬学科4年)	准教授 井出直仁	木	2		
基礎化粧品論 (医療ビジネス薬科学科2年)	教授 井上俊夫	金	3		
総合薬学科学(科目選択有) (薬学科1年)	准教授 齋藤博	不定期	不定期		

！注意！授業の都合上、上記の曜日・時限が変更になる可能性もございます。ご了承ください。

- *印の講義は8～10回、それ以外の講義は14～16回を予定しています。
- お申込の際は、「5 各講義の概要及び担当教員」をご参考にしてください

(2) 講義受講にあたっての注意事項

- 担当教員は都合により変更になる場合があります。
- 曜日・時間・講義室が変則的になる場合があります。その際は追ってご連絡します。
- 講義で使用する教科書は追ってお知らせしますので、書店やインターネット等を通じて各自でご購入下さい。
- 本学はお茶の水にもキャンパスがあります。2つのキャンパスで同時に授業を行うため、講義によってはオンライン講義(オンデマンド配信)になる可能性があります。その際はご自宅での受講または本学での教室での受講となりますので、インターネットに接続できる端末・インターネット通信環境が必要となります

2 受講料・受講の申込み

(1) 受講料 1科目(半期)につき10,000円

※教科書等の教材は自己負担によりご用意いただきます。

(2) 申込期限 令和7年3月19日(水) 必着

(3) 申込方法

以下の事項をもれなくご記入の上、下記お問合せ先に郵便はがき、FAX、またはメールでお申込みください。

- 住所
- 氏名(フリガナ)
- 性別
- 年齢(令和7年4月1日現在)
- 電話番号
- メールアドレス
- 受講希望講義・担当教員名(重複のない限り何科目でも可)

なお、スマートフォンあるいはパソコンを利用した Forms(受講申込フォーム)によるお申込みも可能です。下記QRコードを読みこむかURLを入力してお申込みください。

【大学開放授業講座 2025年度 春学期 日本薬科大学受講申込フォーム】



<https://forms.office.com/r/RypWSDqgMi>

3 講義場所・お問い合わせ先

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室10281
 日本薬科大学さいたまキャンパス 地域連携室・開放講座係担当 阿部彩夏

電話：048-721-6249 (直通)
 FAX：048-721-7305
 E-mail：a-abe@nichiyaku.ac.jp

- ▶ 埼玉新都市交通 (ニューシャトル)
志久駅から徒歩5分
- ▶ JR 上尾駅・蓮田駅 からバスで約15分
日本薬科大学前バス停下車

◎自転車・自動車通学も可能です。
 通学についてお気軽にご相談ください。



4 受講確定について

- 前期の講義は4月より順次開始予定です。
- 申込者多数の場合は抽選になる可能性があります。
- 受講者が決定しましたら、受講案内・講義日程等の詳細を、3月24日(月)前後に文書でお知らせします。
- 申し込み後、都合により受講できなくなった場合は、早めにご連絡ください。一度納入された受講料は返金できませんので、予めご了承ください。

※ 講義に先立ち、「開放講座履修ガイダンス」を下記の日程にて行います。 大学を利用する際についてのご説明・校内のご案内を致します。是非ご参加ください。

ガイダンス日：2025年4月1日(火) 10:00~11:00(1時間程度)

5 各講義の概要及び担当教員

生活・環境・健康・運動生理系	基礎化粧品論 (教授 井上俊夫)	基礎化粧品論を学ぶ意義は、皮膚科学の基礎知識、製品成分とその効果の理解、化粧品の安全性や規制に関する知識を得ることにあります。これらの知識は、自身の肌に合った適切なスキンケア製品を選び、使用するために重要であると同時に、化粧品や美容業界の動向や消費者ニーズを深く理解することにもつながります。これにより、この分野でのキャリアを目指す人々にとって不可欠な業界知識を習得することができます。
	実践医療薬学 (教授 勝山壮)	病院や薬局の薬剤師は、患者情報を共有し、円滑な連携関係を構築しています。近年、地震や洪水、火災などの大規模災害時に、薬剤師がその専門性を発揮し、救急・災害医療チームの一員として活動しています。本講義では、薬剤師が行うべき活動内容や災害に備えた準備体制について学びます。また、実際に震災等で活動した薬剤師（担当教員）の講義を聞き、いくつかの災害状況を想定した課題に対し、薬剤師や薬学生としての行動や注意点についてグループディスカッションやレポート作成を行います。
	健康食品学 (教授 高橋徹)	健康に影響を与える栄養素や機能性成分について議論することで、栄養学等の考え方を身につけることを目的としています。ネットやテレビでは、魅力的な効果を謳った食品や機能性成分が数多く紹介されていますが、それらの情報を正しく判断できるようになることも本講義の重要な目的です。教員側からの情報提供だけでなく、参加者からの質問を取り入れ、講義内容の一部を設定する予定です。
	生活習慣病学 (教授 樋口敏幸)	日本は超高齢社会を迎え、疾病予防や健康維持への関心が高まっています。今後の医療には「健康づくり」を重視した総合的な保健対策が求められ、薬剤師には服薬指導に加え、疾病予防や健康維持への積極的な関与が期待されています。本講義では、生活習慣病（糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満、虚血性心疾患、脳血管疾患、癌など）の病態やリスク要因を理解し、予防・治療・栄養管理を通じた地域保健活動の知識を深めます。
	公衆衛生学 (教授 村橋毅)	公衆衛生学は、個人や集団の健康増進と疾病予防を目的とし、社会に貢献する学問です。本講義では、公衆衛生の基本理念、疫学、保健統計、健康管理、環境保健、母子保健、高齢者医療、労働衛生、学校保健、保健医療制度などの分野について、基礎知識を習得できるよう解説します。さらに、環境汚染、生活習慣病、少子高齢化、精神疾患、貧困と健康など、現代社会で直面する課題を取り上げ、それらを取り巻く社会情勢を考察します。この学びを通じて、人々の健康づくりに貢献する視点を養います。

	運動生理学 (准教授 縣右門)	運動生理学では、運動が身体にどのような影響を及ぼし、どのような変化が生じるのか、その現象と仕組みについての科学的知識を学びます。例えば、筋肉や心肺機能の変化、エネルギー代謝の調節、神経系の適応など、運動による多様な身体の反応を理解します。また、暑さや寒さ、高地環境など、さまざまな外的条件に対する身体の適応や順化についても、生理学的な観点から深く学び、実践的な知識を得られることを目指します。
	健康科学概論 (准教授 篠崎文夏)	ライフスタイルと健康との密接なかかわりを理解します。その中で健康増進・健康づくりに対する運動の重要性と健康な生活を送るために安全で効果的な運動の実践およびその指導に関する基礎的な理論を学びます。
生物系薬学	人体を構成する器官 (教授 櫻田誓)	「人体を構成する器官」では、人体の成り立ちを器官、組織、細胞の各レベルで理解できるようになるために、人体の構造、機能および調節に関する基本的事項を学びます。講義の際には、教科書を参照しながら配布するプリントに沿って講義を行います。
	病原微生物学 (教授 渡邊峰雄)	病原微生物は人に寄生し、その体を利用して増殖する生物であり、私たち人類にとっての「天敵」ともいえます。これに対抗するには、彼らの生存戦略を正しく理解することが必要です。この講義では、病原微生物がどのように人に取り付き、どのように人を傷害するのかを学びます。この知識は、医療現場や日常環境における感染症対策の計画と実施に役立ちます。
化学系薬学	薬学化学 (准教授 高山博之)	ほとんどの医薬品が有機化合物であることからわかるように、化学は薬学において重要な基礎科目の一つです。本講義では、化学結合の仕組み、有機化合物の構造、酸や塩基の概念などを電子論に基づいて解説し、これらの基礎的な考え方を深く学びます。これにより、医薬品の性質や作用の理解に欠かせない化学的知識を習得することを目指します。
	薬と化学Ⅱ (講師 片岡裕樹)	飲み薬の有効成分の多くは有機化合物で、抗体医薬品も分子の大きさは異なれど有機化合物です。一方、薬の対象であるヒトや菌・ウイルスも有機化合物の複合体です。薬の作用は、有機化合物である医薬品と生体との「化学反応の結果」と言えます。本講義では、医薬品の構造と作用の関係や化学的作用機序を学び、医薬品の名称が化学と密接に関わることも理解します。※基本的な有機化学・薬理学の知識があると理解が深まります。
病気とクスリ	循環・泌尿器系疾患と薬 (教授 松田佳和)	薬剤師は、他の医療従事者や患者さん・生活者から”薬の専門家”として信頼される必要があります。そのためには、自ら積極的に情報を収集し(学び)、他者に判りやすく伝えることが必要となります。そこで、本講義では循環・泌尿器系疾患の病態と薬物療法に関して、全学生にグループワークをし、判りやすくプレゼンテーションを行うスタイルを考えています。
	悪性新生物と薬 (准教授 井出直仁)	がん化学療法は、これまで殺細胞性化学療法薬やホルモン療法薬が中心でしたが、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により、大きく変化しました。さらに、CAR-T療法やTCR-T療法などの免疫療法も登場し、がん治療の分野は急速に進展しています。そのため、ガイドラインは頻繁に更新されています。一方で、治療の選択肢が増えたことにより、実践的で専門的な知識がさらに求められるようになりました。この講義では、抗悪性腫瘍薬の薬理や、各種悪性腫瘍の病態、薬物治療に関する基本的な知識を学ぶことを目指します。

漢方薬・生薬系	本草学 (教授 山路誠一)	本草とは「本草石之寒温」、すなわち「草石の寒温(葉の性質)に基づく」という意味に由来し、東洋の薬物学(Materia Medica)を指します。漢方薬や生薬を本質的に活用するには、現代科学的な解釈だけでなく、本草という東洋医学的な理解が欠かせません。また、本草書は創薬における有用な情報源ともなり得る「温故知新」の学問でもあります。本講義では、古代の生薬に関する本草書をひも解くとともに、日本漢方の重要な書物である『傷寒論』や『金匱要略』にも触れ、漢方や漢方薬に関する東洋医学的な知識を深めていきます。
薬学の基礎 (実習含む)	総合薬学科学 (准教授 齋藤)	薬学を学ぶ準備として、化学や生物、物理、数学といった基礎的な内容をわかりやすく学べる講義です。この講座は、1回完結型で参加できるスタイルになっています。高校の時に学んだ内容を振り返りながら、興味のある分野や苦手な部分を重点的に学び、薬学の基礎をしっかりと身につけることを目指します。※ 基礎講義(8回)を受講(科目を問わず選択可)後、化学・生物・物理・数学の中から1つを選択(各8コマ)して受講してください。4種類の実験講義(各2コマ)も1種類受講可能です(人数によっては抽選となります)。なお、実験講義は2コマ連続の受講となります。